

やまぐちっ子学力向上だより

第170号 R8.8.26

山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、各学校で授業改善が進められていることと思います。では、子どもたちの学びをよりよいものにしていくためには、授業改善をどのように進めればよいのでしょうか。

8月に開催した授業力向上実践研究指定校の情報交換会において、各校の実践の共有や、鹿児島国際大学准教授・辻慎一郎先生の御講話を通して見えてきた、授業改善のヒントを紹介します。

辻先生からのメッセージ 「一人の百歩より、全員の一步」

授業改善で大切なのは、一人の先生が優れた実践をするだけではなく、教員全員が、子どもの姿を語り合い、学び合い、少しずつ授業をよくしていくこと。その積み重ねが、子どもたちの「学び続ける力」を育てます。みんなで一歩ずつ、一緒に前へ進んでいくことが大切です。



授業改善を学校全体で～「全員の一步」で子どもの学びを変える～

1 具体的な子どもの姿を共有する

「どんな力を付けたいのか」「どんな子どもの姿をめざすのか」を教員間で共有することが、授業改善のスタート地点です。そして、めざす姿に近づいているかを子どもの具体的な姿から見取り、次の指導に生かしていくことが大切です。



指定校の実践から

- めざす子どもの姿を具体的に設定し、子どもと共有して授業づくりを進めている。
- 子どもの学びの過程に、価値ある姿が表れるという認識を共有。丁寧に見取り、指導や評価に生かしている。
- 子どものよさや課題を共有し、授業改善を繰り返している。

2 教員全員で授業改善を進める

授業改善は、一人の先生の実践では限界があります。教員同士が学び合い、学校全体で取り組むからこそ、授業が磨かれ、子どもたちの学習の改善が加速します。教員自身が学び続ける姿は、子どもたちが自ら学びを進めていくことにもつながります。

校内研修の参考に

辻先生から、熊本大学・前田康裕先生の実践「教師自身が研究テーマを設定し学び合う校内研修」が紹介されました。



動画はこちら▲

指定校の実践から

- 個人の研究テーマを設定し、全員で共有し取り組んでいる。
- 授業づくりをペアやグループで行い、互いに学び合っている。
- チャット等を活用し、授業や子どもの姿について情報交換することを日常化している。
- 中学校区全体で共同研究し、小中のつながりを生かしている。

3 子どもとともに、よりよい学びをつくる

授業改善を教員だけで終わらせず、子どもたちと「どんな力を付けたいのか」「どんな学びをめざすのか」を共有し、子ども自身が自分の学び方を振り返ったり、選んだりできるようにすることも大切です。教師と子どもがめざす姿を共有し、ともによりよい学びをつくっていく。このような取組は、子ども自身が学びを調整しながら学び続けることにつながります。

指定校の実践から

- 「先生はこれが大事だと思うけど、みんなはどう？」と問いかけ、子どもの意見を授業に生かしている。
- 子どもが授業を参観し、よさや改善点を伝え合う取組を行っている。
- 学び方や表現方法を子どもが選択する機会を保障している。

子どもに探究的な学びを求めるからこそ、教員も探究的に！

このように、学校全体でめざす姿を共有し、教員同士で学び合いながら実践し、振り返り、また次の実践へ。さらに、子どもの意見も生かしながら授業改善を進める姿は、子どもたちに大切にしてほしい探究的な学びの姿とも重なります。

子どもに探究的な学びを求めるからこそ、教員自身も問いをもち、対話し、振り返りながら授業改善を進めていく。こうした学校全体の取組を、子どもたちの探究的な学びにつなげていきましょう。

★子どもと教師の学びについて考えてみましょう

あなたの学校・学年では・・・

- ☐ 教員同士で、どのような「めざす子どもの姿」を共有していますか？
- ☐ どのような機会に、教員同士で授業について語り合っていますか？
- ☐ めざす姿や学びについて、子どもたちと共有していますか？

あなたの学級では・・・

- ☐ めざす子どもの姿が最近見られたのは、どんな授業ですか？
- ☐ 最近見付けた「いいな」と思う子どもの姿を、誰かに話しましたか？
- ☐ 最近、子どもが「もっと知りたい」「やってみたい」と動き出したのは、どんな場面ですか？

▶ あなたが次に踏み出す一步は？

☆授業力向上実践研究指定校 研究発表会の御案内

期日等は次のとおりですので、ぜひ御参加ください。指定校の取組が、一人でも多くの先生に届き、一人でも多くの子どもの学びが一層豊かになりますように。

令和8年度授業力実践研究指定校による授業公開予定

